

第 1 期における調査の進捗状況について

- 1 - 1 1891 濃尾地震
- 1 - 2 1707 富士山宝永噴火
- 1 - 3 1783 天明の浅間山噴火
- 1 - 4 1976 酒田の大火並びに北部日本海地域都市の大火

平成17年2月23日

1891年濃尾地震報告書進捗状況

「濃尾地震」分科会主査
東京大学地震研究所教授
山岡耕春

平成16年度は2回の分科会会合を開いた、3回目は都合により中止となったので、年度内に1回会合を開く予定。その場で第1稿を持ち寄ることになっている。神戸の国連防災会議に加え、年末のスマトラ沖大地震の対応に事務局だけでなく主査や一部の委員も追われているため、進捗は遅れ気味である。

現在各委員に置いて、執筆および執筆のための調査が行われている。東大地震研究所の図書室、岐阜県図書館等における資料調査が行われた。また濃尾地震は初めて災害写真が登場した地震であり、あちこちに写真が残されている。写真の調査とデータベース化の作業が進行中である。写真はDVDにて報告書に添付する予定である。

1. 分科会委員

主査：山岡耕春（東京大学地震研究所 教授）
委員：鈴木康弘（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）
西澤泰彦（名古屋大学大学院環境学研究科 助教授）
松田之利（中部大学人文学部 教授）
北原系子（神奈川大学非常勤講師）
戸松修（岐阜大学農学部 教授）
岡田洋司（愛知学泉大学コミュニティー政策学部 教授）

2. 分科会履歴

第1回 平成16年6月14日 名古屋大学にて
報告書概要についての打ち合わせ
報告書構成案と執筆担当を決める
第2回 平成16年9月16日 名古屋大学にて
執筆委員を2名追加した
進捗状況について情報交換した

3. 報告書構成

1章 災害の概要

1-1. 濃尾地震

1-1-1 濃尾地震の地震学的特徴 (山岡)

- (1)地殻変動と断層モデル
- (2)断層と強震動の特徴

1-1-2 濃尾地震の地震断層 (鈴木)

- (1) 概要
- (2) 温見断層と黒津断層
- (3) 根尾谷断層
- (4) 梅原断層と古瀬断層

1-1-3 濃尾活断層系と濃尾地震の関係 (鈴木)

- (1) 濃尾活断層系の活動履歴
- (2) 濃尾活断層系の位置づけ

1-1-4 中部・近畿地域の地震の特徴とテクトニクス (山岡)

- (1)中部・近畿のプレート沈み込みと内陸活断層
- (2)中部・近畿における応力場と地震発生原因

1-2. 濃尾地震による災害

1-2-1 濃尾地震における建築の被害状況 (西澤)

- (1)建築的被害の実態
- (2)建築的被害の原因と特徴

1-2-2. 濃尾地震以前の森林と河川 (戸松)

- (1)江戸時代までの森林と河川
- (2)明治初期の森林と河川

1-2-3. 濃尾地震と土砂災害 (戸松)

- (1)地震と土砂移動
- (2)濃尾地震による土砂災害
- (3)地震後の復旧状況

第2章 濃尾地震の被害と救済

2-1. 岐阜県の被害・救済 (松田)

2-2. 愛知県の被害・救済

2-2-1. 愛知県における濃尾地震の概要と被害 (岡田)

- (1)中島郡を中心とする尾張部の被害
- (2)名古屋市の被害
- (3)三河の被害

2-2-2 地震をめぐる言説 新愛知新聞の言説を中心に (岡田)

- (1)近代的メディアと濃尾地震
- (2)科学性と鯀絵
- (3)復興を求めて

- 2-2-3. 復興の諸相 (岡田)
 - (1) 下賜金をめぐって
 - (2) 町村の対応 - 中島郡の諸町村の対応を中心に
 - (3) 県と県会の対応
- 2-2-4. 地震と北海道移民 八雲村の成立 (岡田)
- 2-2-5. 記憶の固定化 記念碑の建立をめぐって (岡田)

2-3. 濃尾地震の被害を受けた各県における災害対応の地域差 (岡田・北原・松田)

- 2-3-1. 尾張農村部と名古屋市の対応
- 2-3-2. 三河部での対応
- 2-3-3. 愛知県の対応の特質

第3章 濃尾地震のインパクト

- 3-1. 国の地震防災へ影響 (北原)
 - 3-3-1 災害医療救援体制
 - 3-3-2 震災予防調査会の設立
 - 3-3-3 勅令による救済で派生した諸問題など
- 3-2 建築構造物への影響 (西澤)
 - 3-2-1 濃尾地震後の建築的対応
 - (1) 震災予防調査会の活動
 - (2) 造家学会(建築学会)の活動
 - (3) 官民建築界の対応
 - 3-2-2 関東大震災における建築的対応の検証 (西澤)
 - (1) 煉瓦造
 - (2) 木造
 - (3) 鉄筋コンクリート造
 - (4) 鉄骨造
- 3-3 濃尾地震の災害写真 (北原)
 - 3-3-1. 災害写真の登場の意義
 - 3-3-2. 濃尾地震災害写真データベース

コラム(案): 1. 世界の地震学に大きな影響を与えた濃尾地震
2. 濃尾地震災害に関する伝承を記述する

2005.2.23

「宝永4年（1707）富士山宝永噴火」分科会報告

報告書執筆者：井上公夫、久保田昌希、小山真人、下重 清、宮地直道、松尾美恵子

第4回分科会（2005年2月4日）

【主な議事】

報告書目次・内容構成について検討、執筆分担等の確認

（別添参照）

執筆の途中経過報告

主な意見、協議の内容

- ・ 降灰の分布図と降灰データは一覧表の形で付録資料とする。
- ・ 降灰物の内容とその影響（火災や家などの破壊）を報告書に記載するとよいのではないか。将来への注意喚起となる。
- ・ 日付の表記方法については、旧暦の時代は、和暦の年月日（西暦の年月日）の順で表記する。（算用数字を用いる） 図表については、キャプションに西暦で表記する旨の記述をすれば、西暦で表記してもよいこととする。
- ・ 日付の表記方法等について、すべての報告書に凡例を載せるべきではないか
- ・ 当時の時刻を現代の時刻へどのように換算するかは、執筆者の判断にまかせる。

今後の予定

- ・ 原稿素案の提出期限を3月末とする。
- ・ 4月18日（月）又は11日（月）に分科会を行う。それまでに原稿素案を相互チェックする。あわせて、「コラム」「はじめに」「おわりに」の内容について検討を加える。
- ・ 専門調査会の前の7月頃に、完成原稿の最終調整を行うための分科会を開催するとともに、現地の巡見を行う。
- ・ 7月の分科会の後、編集社へ原稿を提出する。
- ・ 9月末完成をめざす。

「1707 富士山宝永噴火」報告書目次(第3次案)

平成17年2月23日現在

はじめに

富士山の山としての特性

1. 富士山の構造……………(宮地委員)
2. 火山活動の歴史
 - a. 富士山の噴火史……………(宮地委員)
 - b. 歴史時代の火山活動……………(小山委員)
 - ア 延暦噴火と古代東海道の被災
 - イ 貞観噴火と富士五湖の地形変化
 - ウ 謎の多い中世の噴火
 - c. 富士山噴火と関東・東海地震の関係……………(小山委員)
3. 富士山をめぐる人びとと地域の歴史像……………(久保田委員)
 - a. 都良香のみた富士山
 - b. 富士信仰と御師・導者たち
 - c. 富士山と戦国の人々

宝永噴火の推移と噴出物

1. 史料に基づく宝永噴火の前兆と推移……………(小山委員)
 - a. 絵で見る宝永の大噴火
 - b. 文書記録からたどる宝永噴火の推移
 - ア 富士山麓の記録からみた噴火の推移
 - イ 江戸の記録からみた噴火の推移
 - ウ 縁辺降灰域の記録からみた噴火の推移
 - エ 西方遠隔地からみた噴火の推移
 - c. 宝永噴火の前兆
 - ア 元禄関東地震と富士山鳴動
 - イ 宝永東海地震から宝永噴火へ
 - d. 自然現象の推移のまとめ
2. 宝永噴火の噴出物の分布と特徴……………(宮地委員)
3. 遺跡に認められる宝永噴火の噴出物……………(宮地委員)
4. 噴火に遭遇した人々の心理……………(小山委員)
 - a. 東海道沿線の状況
 - ア 小田原・箱根
 - イ 三島・沼津
 - ウ 清水・磐田
 - b. 北麓での状況 山梨県忍野村の人々
 - c. 江戸の状況

時代背景とファーストインパクト

1. 宝永という時代背景……………(松尾委員)
2. 幕府・小田原藩の視察と情報収集……………(下重委員)
 - a. 噴火の第一報
 - b. 幕府役人の現地視察
 - c. 小田原藩の初動調査
 - d. 小田原藩江戸詰役人の視察
3. 「砂降り」被害
 - a. 須走……………(松尾委員)
 - b. 山北……………(久保田委員)
 - ア 村々のうけた被害
 - イ 関所への被害
 - ウ 名主が記した「砂降り一件」
 - c. 小田原……………(下重委員)
 - ア 昼中灯を用いる
 - イ 50匁の石が降る
 - ウ 石砂見分帳
5. 被災者の訴願行動……………(下重委員)
 - ア 足柄104か村で願書提出
 - イ 幕府への訴願取り次ぎ要求
 - ウ 江戸出訴
 - エ 御救い米と砂掃き料の支給約束
 - オ 再度の江戸出訴
 - カ 品川での約束

一次災害への国家的対応と社会的影響

1. 緊急救助活動……………(下重委員)
 - a. 被災直後の救恤
 - b. 御救い米の支給
 - c. 年貢未納分の免除
 - d. 飢人書き上げの提出
 - e. 砂除けお救い金の給付
2. 幕府領編入と諸国高役金……………(松尾委員)
3. 復興事業(「砂除け」)の特質
 - a. 駿河国駿東郡……………(松尾委員)
 - b. 相模国足柄上下郡……………(下重委員)
 - ア 大名お手伝い普請
 - イ 御林跡地への転居
 - ウ 川村関所の修復

- エ 大口堤の決壊と修復
- 4. 地域社会へ与えた影響
 - a. 信仰への影響……………(久保田委員)
 - ア 宝永噴火後の拝登
 - イ 新たな信仰の登場
 - ウ 祀られた代官伊奈忠順
 - b. 人口減少と「亡所」化……………(松尾委員)
 - c. 大野原入会地争論……………(松尾委員)

V 長期化する二次災害への対応

- 1. 頻発する土砂災害と洪水……………(井上委員)
 - a. 土砂災害はいつどこで起きたのか 土砂災害の全体像
 - ア 土砂災害のタイプ
 - イ 土砂災害地点の分布
 - ウ 降下火砕物と土砂災害との関係
 - b. 富士山東麓(御殿場・小山)における土砂災害
 - c. 丹沢山地および酒匂川中流域における土砂災害
 - d. 酒匂川下流・足柄平野における土砂災害と洪水
 - e. 酒匂川流域以東における土砂災害と洪水
- 2. 政権交代と享保政治……………(松尾委員)
- 3. 砂防・治水政策の変容
 - a. 駿東郡の砂除堰・砂流堀……………(松尾委員)
 - b. 酒匂川の大口堤……………(下重委員)
 - ア 酒匂川の西流
 - イ 小田原領復帰と再上知
 - ウ 田中休愚と文命堤(大口堤)
 - エ 公儀普請の訴願
- 4. 復興へのステップ
 - a. 旧領への復帰……………(下重委員)
 - ア 蓑笠之助による大口堤閉め切り
 - イ 地域秩序の回復
 - ウ 小田原藩領復帰と地押し改め
 - エ 小田原藩城付き領の回復
 - オ 御厨領の復興状況
 - b. 須山口登山道の復活……………(久保田委員)
 - ア 宝永噴火と須山口
 - イ 勝田惣次郎父子の登山道復興事業
 - ウ その後の須山口

まとめ

コラム(追加予定)

- ・ 和暦と西暦
- ・ 時刻の換算
- ・ 更級日記の作者は富士山の噴火をみたか

(引用資料一覧)

天明の浅間山噴火分科会の作業進捗状況及び今後のスケジュール

1 報告書の構成

はじめに

第1節 浅間山の形成史と天明3年噴火の経緯および災害の概要(安井)

第2節 天明3年の時代状況(渡辺)

第1章 天明3年浅間山噴火の経過と災害

第1節 天明3年浅間山噴火の経過(安井)

第2節 天明3年浅間山噴火の物的被害(安井)

コラム 天明3年前後の気候(仮)(三上、原稿未着)

第2章 よみがえった「天明3年」

第1節 天明噴火の被害と発掘調査(関)

第2節 よみがえった鎌原村(仮)(松島、原稿未着)

第3節 被害状況を伝える遺跡や遺物(関)

第4節 最近の発掘調査で分かってきたこと(関)

第5節 天明泥流被災範囲をたどる(関)

コラム 日本のポンペイ(浅間とベスビオ)

コラム 2004年の噴火で確認した天明3年のこと(関)

第3章 復興への努力と災害の記憶

第1節 噴火の記録と復興への努力(渡辺)

第2節 熊本藩お手伝い普請による災害復興(北原、原稿未着)

第3節 災害情報の伝播と記憶(大浦)

おわりに(執筆者未定)

2 報告書完成までのスケジュール

2005年2月21日 分科会で一次原稿検討

5月中旬頃 分科会で最終原稿検討 分科会最終案提出

小委員会で最終案報告 指摘をうけて修正

専門調査会で最終案報告 指摘をうけて修正

9月 報告書完成

3 分科会委員

渡辺 尚志	一橋大学大学院社会学研究科教授
荒牧 重雄	日本大学講師、東京大学名誉教授
北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
鎌田 浩毅	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
関 俊明	群馬県埋蔵文化財調査事業団
安井 真也	日本大学文理学部地球システム科学科
大浦 瑞代	お茶の水女子大学大学院

主査

2005年2月23日

酒田大火並びに北部日本海地域都市の大火 報告書

(第4次構成案)

第1編 北部日本海地域の地理的特徴

第1章 地形と気候

第2章 火災発生の気象状況と特徴

第2編 前近代における北部日本海地域の大火

第1章 青森県域

1. 青森町の地理的・歴史的特徴(立地・気象、津軽領内における青森町の成立と盛衰)

2. 青森町における主な大火の実態と特徴

明和3年(1766)の大地震による大火

天明3年(1783)の青森大火

嘉永6年(1853)の大町大火(別名米百火災)

安政6年(1859)の大火

万延2年(1861)の大火

明治4年(1871)の大火

各大火の特徴と消防体制

3. 大火後の救恤活動 - 藩政と民衆 -

4. 「金木屋日記」などに見る災害情報について

第2章 秋田県域

1. 久保田町、土崎湊の地理的・歴史的特徴(立地・気象、秋田領内における久保田町、土崎湊の成立と盛衰)

2. 久保田町、土崎湊における主な大火の実態と特徴

慶安3年(1650)の久保田町大火

享保15年(1730)の久保田町大火

文化年間の土崎湊大火

3. 大火後の都市計画と消防組織

4. 大火後の救恤活動 - 藩政と民衆 -

第3章 山形県域

1. 酒田湊の地理的・歴史的特徴(立地・気象、庄内領内における酒田湊・町の成立と盛衰)

2. 酒田湊における主な大火の実態と特徴

明暦2年(1656)の清十郎火事

享保11年(1726)の片町火事

明和9年(1772)の片町火事

天明5年(1785)の下袋小路火事

文政 5 年（1822）の染屋小路火事
3．大庄屋文書及び御用帳からみた救恤活動 - 御用金と町用金 -

第 3 編 近現代における北部日本海地域の大火

第 1 章 青森県域

- 1．青森市の地理的・歴史的特徴（立地・気象、近代以降における地方都市の成立と盛衰）
- 2．青森市における主な大火の実態と特徴
 - 明治 23 年（1890）の浜町大火
 - 明治 43 年（1910）の青森大火
 - 大正 15 年（1929）の浪内大火
 - 昭和 15 年（1940）の古川大火
 - 昭和 22 年（1947）の北金沢・駅前大火
- 3．大火後の都市計画と防災組織

第 2 章 秋田県域

- 1．秋田市、能代市の地理的・歴史的特徴（立地・気象、近代以降における地方都市の成立と盛衰）
- 2．秋田市、能代市における主な大火の実態と特徴
 - 明治 19 年（1886）の秋田町大火（俵屋火事）
 - 昭和 24 年（1949）の能代市大火（第 1 次）
 - 昭和 31 年（1956）の能代市大火（第 2 次）
- 3．大火後の都市計画と防災組織

第 3 章 山形県域

- 1．酒田市の地理的・歴史的特徴（立地・気象、近代以降における地方都市の成立と盛衰）
- 2．酒田市における主な大火の実態と特徴
 - 明治 27 年（1894）の庄内地震による酒田大火
 - 庄内地震について
 - ㊦庄内平野の地形・地質的特徴（酒田を中心として）
 - ㊧明治庄内地震の被害状況（主に家屋倒壊率分布）
 - ㊨明治庄内地震の震源推定（現在のところ不明ですが、，，，）
 - 明治 33 年（1900）の浜中火事

第 4 編 昭和 51 年（1976）の酒田市大火 - 総合的把握 -

第 1 章 大火の経過

- 1．気象状況と火災起因
- 2．火災の進捗と火災防御

第 2 章 被害の実態と市民生活

- 1．被害の状況
- 2．火災後の対応と市民生活

第3章 大火復興への歩み

1. 復興への序章
2. 都市計画と区画整理

第4章 復興後の防災対策と現況

1. 耐火建築と火災に強い街づくり
2. 大火後の防災対策と現状

第5編 酒田大火並びに北部日本海地域都市の大火の教訓

- 第1章 酒田大火の教訓
- 第2章 各地大火の特徴と教訓
- 第3章 総合的な教訓

別編 酒田大火並びに北部日本海地域都市の大火 データベース

災害教訓「酒田大火」分科会進捗状況及び今後のスケジュール

平成17年2月23日

進捗状況

<分科会>

第1回 平成16年11月1日（内閣府特別会議室）
・報告書の構成、執筆分担等について

第2回 平成17年1月19日（神戸市）
・目次案、報告書ページの割当について

第3回 平成17年2月22日（内閣府B会議室）
・報告書構成案、見本原稿の検討について

今後のスケジュール

<分科会>

第4回 平成17年6月頃（酒田市：予定）

以後未定

<報告書>

- ・17年9月末を目途で原稿提出。
- ・17年10月～原稿整理。
- ・17年12月の専門調査会で形にする。
- ・18年3月刊行予定。